

― 次の文章の筆者は、「無言館」という美術館の館長をしている人で、「無言館」には、太平洋戦争で若くして亡くなった画学生たち（戦没画学生と呼ばれる）の絵画が集められています。文章を読んで、後の問に答えなさい。

まず第一に、この「無言館」にならないでいる絵をみてすぐに気づくことは、絵を描いたどの画学生さんも「絵を描くよろこび」にあふれているということです。もっと正確にいうなら、一枚一枚の絵の中に画学生さんたちの「絵を描けてうれしい！」という気持ちがこめられているのです。

さつきもいったように、あの戦争の時代、画学生たちは満足に絵の勉強をする時間をあたえられませんでした。授業中は鉄砲をうつ練習や、竹やりで敵に見たてたワラ人形を突き刺す訓練をしなければならませんでしたし、それに、しょっちゅう敵の飛行機が飛んできて空襲警報のサイレンがなり、そのたびに校庭のすみの防空壕（爆弾から避難するために掘った横穴）に逃げこまなければなりませんでした。また、学校を卒業したら、国の命令にしたがってすぐに戦争にゆかなければならなかったのです。

A、そうした画学生のどれもが、

①「ことによると、自分は生きて帰ってこれないかもしれない。」

と書いていました。

B、画学生たちはよけいに好きな絵を描く時間をたいせつにしました。日高さんのように、みんな「あと五分、あと十分、この絵を描かせておいて！」という気持ちだったのです。今私たちが生きている時代のように、思うぞんぶん勉強ができて、いつでも好きなときに自由に絵を描くことができるという時代ではありませんでした。また、戦争でどんなモノも不足していた時代ですから、一枚の紙や一本の鉛筆だってじゅうぶんには手に入りませんでした。学生さんたちはそのたいせつな数少ない絵の具や紙を使って、いや自分たちののこり少ない人生の時間を使って、一生懸命好きな絵を描いていたのです。

「C」^③、「無言館」にかざってある絵には、有名な画家になりたいとか、コンクールに入賞したいとか、絵を売ってお金持ちになりたいとか、そういう目的で描かれた絵は一枚もないといっている。画学生たちはただただ一心に、絵を描きたくて絵を描きたくてしようがなかっただけなのです。ちよつとむずかしいかと、自分たちが生きているし、いとして絵をのこしておきたかったといっているかもしれない。私たちが「無言館」にある絵をみて、たとえそれがそんなに上手ではない未熟な絵であっても、なんとなくジンと胸をうたれるのは、絵の奥にそういう画学生さんたちの純粋な心があるからなのではないでしょうか。

そうです。「無言館」の画学生さんの絵は「絵を描くよろこび」にあふれているといいましたが、それは人間の「生きるよろこび」でもあるのです。人間はだれでもその「生きるよろこび」をもって生まれてきているはずですよ。すべての人間には「生きるよろこび」をもつ権利があたえられているといってもいいかもしれません。「無言館」にならんでいる戦没画学生たちの絵は、私たちに静かにそのことをうたえつつづけているのです。

D、この美術館にはなぜ「無言館」というようなヘンテコな名前がつけられているのでしょうか。「無言」とは読んで字のごとしで、「人間がだまっていること」「何も言葉に出さないこと」という意味ですが、それではこの美術館は「だまっている美術館」なのでしょうか。だから「無言館」と名づけられているのでしょうか。

たしかに戦没画学生たちの絵とかぎらず、絵というものは「無言」です。おしゃべりする絵などというものはきいたことがありません。ピカソの絵だってマチスの絵だって、他のどんなに有名な画家たちの絵だって、ただだまってそこにならんでいるだけです。絵は私たちがそれをじつとみつめることによって、はじめて私たちの心に何ごとかを語りかけてくるものなのです。テレビやレコードのように、スイッチを入れると歌や言葉が勝手にながれてくるものではなく、ただそこにあるだけでは絵は何も語りかけてきません。そういう意味では、絵はいつも「無言」なのです。

それは、戦没画学生たちの絵をみる私たちもまた、やはり「無言」であるということです。なんともいうようです

が、私たちは今とても幸せな時代^aに暮らしています。世の中にはモノがあふれています。ですから、戦没画学生さんたちが味わった苦しみや悲しみを、今の私たちが同じように味わうことはとてもむずかしいのです。戦争中なのでモノが不足していたとか、食べるものがなかったとか、勉強する時間がなかったとかいわれても、それをちゃんと理解することはなかなか困難^bなのです。

戦没画学生さんのことを、

「E」

などと同情することはできません、心の底からその苦しみや悲しみをわかってあげることができません。

「無言館」という名前には、絵が私たちに「無言」であるだけではなく、私たちのほうも画学生さんたちの絵にむかって「無言」であるという意味もふくまれているといっているように感じます。

それから、もう一ついえることは、「無言館」の絵の前に立ったとき、私たちは現在の自分たちの生活に対してなんとなく疑問を抱いてしまうということです。朝から晩までゆたかなモノにかこまれ、何一つ不自由のない生活を送っているが、自分はこの画学生さんたちのように一生懸命生きているだろうか、という疑問です。明日戦争で死んでしまうかもわからない画学生さんたちが、その短い一生を「絵を描くこと」にささげていたのと同じように、私たちにはこんなに一生懸命生命をかけてうちこめる目的があるのだろうか、という疑問^cなのです。

たしかにおいしいものをお腹いっぱい食べたときは幸せです。お小遣いをたくさんもらって好きな洋服を買ったときもそうです。学校の休みの日に、マンガを読んだり映画をみたり、旅行をしたりするのが大好きな人も多いことでしょう。

でも、こうして戦没画学生さんたちの絵をみると、人間の幸せはそういうものばかりではないことに気づかされます。たとえ戦争へゆく運命であっても、貧乏で絵の具や鉛筆がじゅうぶんに買えなくても、画学生さんたちには「絵を描く」というすばらしい人生の目的があったのです。毎日毎日、こんどはこういう絵を描こう、こんなものを

描いてみよう、という希望とよろこびにあふれて生きていたのです。ですから、「無言館」にならんている画学生さんの絵は、ちっとも悲しくも苦しくもみえず、むしろ生き生きと輝いてみえるのです。

（窪島誠一郎『「無言館」ものがたり』〈講談社〉による。途中省略した箇所があります。）

問一 — 線部①・②・③・④に入る適当な語を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、

同じ語を二度使用することはありません。

ア つまり イ しかし ウ そして エ ところで オ ですから カ あるいは

問二 — 線部①にならって、「ことによるとうしれない。」という、主語・述語のはっきりした短文を自分で考え、40字以内で書きなさい。

問三 — 線部②について。画学生たちは、どのような時にこのような気持ちになったと思われますか。その状況を推測して書きなさい。

問四 — 線部③について。このような心持ちを言い表すのに最も適当な語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 功名心 イ 自尊心 ウ 向上心 エ 執着心

問五 — 線部④について。ここで「いや」という語を用いた時、筆者はどのように考えたのでしょうか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 直前に述べた内容の誤りに気づいて、続く文で急いで訂正しておこうと考えた。
イ 直前に述べた内容が強過ぎると判断して、続く文で表現を和らげようと考えた。
ウ 直前に述べた内容を踏まえて、続く文で異なる角度からとらえ直そうと考えた。
エ 直前に述べた内容に付け加えて、続く文でさらに具体的に説明しようと考えた。

問六 — 線部 a「ゆたかな」・b「困難な」・c「疑問な」・d「好きな」の語の中で、ことばのきまりから考えて他の三つと異なるものはどれですか。a～dの記号で答えなさい。

問七 — E を補うのにふさわしい表現を自分で考え、30字以上50字以内で書きなさい。

問八 次の一文は、もともと本文中にあったものです。元に戻すのに適当な箇所を探し、直後の一文の最初の五字を抜き出さない。（句読点も一字に数えます。）

*じつは、この美術館にはもう一つの意味がこめられています。

問九 — 線部⑤「私たちの『無言』である」とは、どういうことですか。80字以内で説明しなさい。

問十 画学生たちの絵は、筆者の目には、どのような作品と映っていますか。本文全体を踏まえて80字以内で述べなさい。

二 次 次
次の文章を読んで、後の問に答えなさい。なお、*を付けたことばには後に（注）があります。

著作権上の都合により文章の掲載を省略しました

著作権上の都合により文章の掲載を省略しました

(注) マイナーチーム…アメリカのプロ野球(大リーグ)の下部チーム ジルバ…社交ダンスの一つ
罵声…：ののしりさわぐ声 シグ…：テンポの速い躍動的な踊り

問一 ― 線部①には、シヨーンに対する「ぼく」のどのような思いが込められていますか。最も適当な語を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 反発 イ あこがれ ウ 尊敬 エ ねたみ オ 信頼

問二 Aに入る最も適当な語を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア おろおろと イ ふらふらと ウ つかつかと エ しずしずと オ いそいそと

問三 Bに入る漢字一字の語を答えなさい。

問四 ― 線部②「丸くすくつたバニラアイスクリームに棒を四本突き刺した」とは「ぼく」のどのような外見をたえていますか。分かりやすく説明しなさい。

問五 ― 線部③について。「ぼく」が「落ち着きを失っていただろう」と考えられる理由を説明しなさい。

問六 Cを補うのにふさわしいことを考えて、30字以内で答えなさい。

問七 ― 線部④「ぼくはひとりきりになった」とは、「ぼく」のどのような様子を表していますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 思いもよらない期待をかけられ有頂天うちようてんになっている。
- イ ひとり残されたマウンドで孤独こどくをかみしめている。
- ウ 周囲の騒ぎにまどわされず試合に集中している。
- エ ひとりで責任を引き受けてしまい緊張きんちやうしている。

問八 この試合を通して、「ぼく」はどのように変わったでしょうか。自分のことばで説明しなさい。

三 次の各文の ― 線をつけたカタカナの部分で、漢字で書きなさい。

- ① 兄は大阪おおさかの会社にツトつとめている。
- ② スポーツ界にギョウセキぎょうせきを残した。
- ③ オサナおさない日の思い出をふりかえる。
- ④ ショメイしょうめい運動を行う。
- ⑤ 徳川家のケイズけいずを調べる。
- ⑥ 彼にはフタンふたんが重すぎた。
- ⑦ 参加者からリョヒりょうひを集める。
- ⑧ 先頭との差がチヂちぢまる。
- ⑨ 車がコショウこしょうしてしまった。
- ⑩ オクガイブルおくがいぶるを利用する。
- ⑪ キビしい寒さを乗りきる。
- ⑫ ごみを分別してスすてる。

(これで問題は終わりです)